



学校教育目標 かしこく たくましく 心豊かな 児童の育成
目指す児童像 瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く 鈴谷の子

令和6年2月29日号
家庭数配付

鈴谷小だより

令和5年度 第11号

鈴谷小Webページアドレス

さいたま市立鈴谷小学校 ☎852-5675

<https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/>



なぜ走るのか

校長 中田 清人



2月12日(月)に行われた「さいたまマラソン」では、本校の子ども達、保護者、そして教職員までもが何名か応援に来てくださり、ご声援をいただきました。特にレース後半は足の激痛に襲われ、何度も「棄権したいな」と思いましたが、それでも完走できたのはこの声援のお陰です。心からお礼を申し上げます。また、レース後も多くの方からお声掛けいただきました。こんなに关心をもっていただけたなんて、少し照れ臭くもありますが、大変ありがたいと思います。

先日、3年生の子ども達からインタビューを受けました。国語の学習の一環なのだそうです。「なぜ『さいたまマラソン』を走ろうと思ったのですか」「どんなことを伝えたいと思ったのですか」など、本質に迫る質問に、思わず「いい質問だねえ」と舌を巻きました。

中学生の頃は、体育祭の選抜1500m走において、30人中29位という苦い思い出もある陸上競技に、私がそれ以降、真剣に取り組むことはありませんでした。陸上、特に長距離走は、テレビで見たり、応援したりするものであって自分がやるものではないというのが、最近までの私のスタンスでした。

そんな私が走るようになったきっかけは、コロナ禍での体力の維持向上を目指して始めた散歩です。半年ほど散歩を続けたある日、颯爽と走る市民ランナーに触発され、試しに走ってみたら4kmを走ることができました。それから一月後には、10kmを走り切ることができるようになりました。不思議なことに、体力がついただけでなく、気持ちにゆとりができたり、仕事にも生かせる新たな発想が生まれたりする感覚も感じるできるようになりました。このようにして心身の健康には走ることが大変有効だと実感するにつれ、目標を立て練習や努力を重ねていくことや、目標を達成することで自信が付いたりすることを、みんなにも伝えたいという気持ちが湧いてきました。「こんな体力や才能に恵まれていないおじさんでも、目標をもって努力するとできるようになるんだよ」と身をもって伝えたいという気持ちが高まってきたのです。

また、マラソン大会はランナーだけが努力するのではなく、大会主催者に加え、社会人や高校生の多くのボランティアの皆様、沿道に駆けつけた声援を送ってくださる多くの皆様によってサポートされています。私などの名もなきランナーにも声援を送ってくださるのです。ランナーもボランティアも、沿道で声援を送ってくださる皆様も、その全員が当事者としてランナーの完走やそれぞれの目標の達成に向け、役割を果たしていると言えるでしょう。

私は校長という立場を生かして、運動することのよさを、自分に合った目標を設定し達成を目指すアプローチや共通の目標達成に向け協働することのよさを、みんなに知ってもらうためには、どうしたらよいか考えました。実はあまり目立つことが好きではない私には、少しおこがましい気がしましたが、「さいたまマラソン」の出場をお知らせすることが一つの方法ではないかと考えました。

これからは、このようなみんなが一体となれるような営みを学校でも行っていきたいと考えています。昨年度の学校だより4月号に書いたように、目標達成に向け、「この指とまれ」と差し出した指にみんなが集う、そんな学校づくりを引き続き目指します。私とその一つのロールモデルとなれたらと願う気持ちが、「なぜ走り」「何を伝えたいか」に対する私の回答です。

えっ？来年も走るのかって？その前に、私にはダイエットが必要のようです。お後がよろしいようで。